

モクセンナ

『沖縄の有用植物資源』第8回目は、モクセンナを紹介したいと思います。

モクセンナは、熱帯アジア原産のマメ科カワラケツメイ属の低木で、観賞用として熱帯各地で広く栽培されています。鮮やかな黄色の花を咲かせ、県内でも同属植物のコバノセンナ (*Cassia coluteoides* Colladon) などと同様に街路樹や庭園樹として用いられています。また、伝承的に民間薬として糖尿病、腰痛、便秘などの症状に用いられてきました。

モクセンナ (マメ科)



学名: *Cassia glauca* Lam.

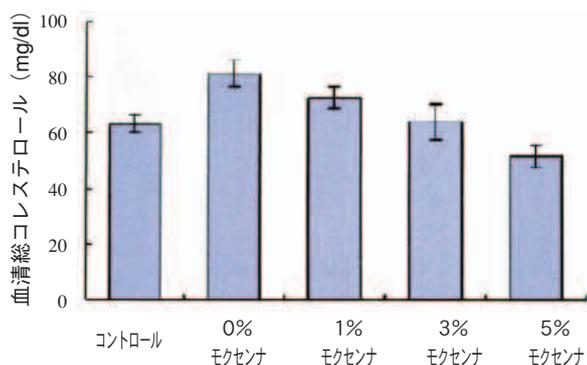


図1 モクセンナ抽出物連続投与が血清総コレステロール濃度に与える影響

工業技術センターでは、高脂血症改善や抗肥満の指標となるリパーゼ阻害活性について試験管レベルでの試験を行い、モクセンナの抽出エキスに活性を見いだしました。そこで、モクセンナが脂質代謝に及ぼす影響を検討するため、動物での投与試験を行ったところ、モクセンナ抽出物を配合した飼料を投与した群において、血清総コレステロール濃度、肝臓総コレステロール濃度、肝臓中性脂肪濃度がコントロー

ルと比べて有意に低下していることが確認され、高コレステロール血症改善及び脂肪肝の改善に有望な素材であることを見いだしました。

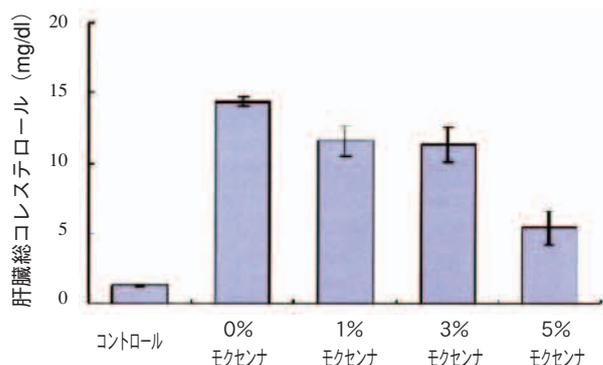


図2 モクセンナ抽出物連続投与が肝臓総コレステロール濃度に与える影響

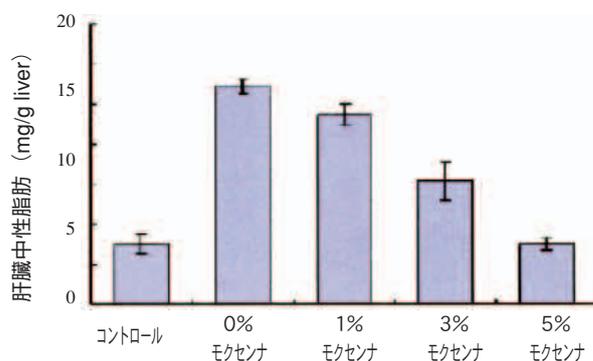


図3 モクセンナ抽出物連続投与が肝臓総中性脂肪濃度に与える影響

参考文献

- ・世界有用植物事典 堀田満ほか編集、1996年発行 平凡社
- ・沖縄の都市緑化植物図鑑 1997年発行 (財) 海洋博覧会記念公園管理財団
- ・おきなわの薬草百科 大田文子、多和田真淳共著、1985年発行 新星図書出版
- ・平成15年度 沖縄県工業技術センター研究報告 P101-106
- ・平成16年度 沖縄県工業技術センター研究報告 P1-4